

浜岡原子力発電所 事務所における空調設備の電源盤からの火災の原因と対策

1 火災の概要(2017年3月8日お知らせ内容)

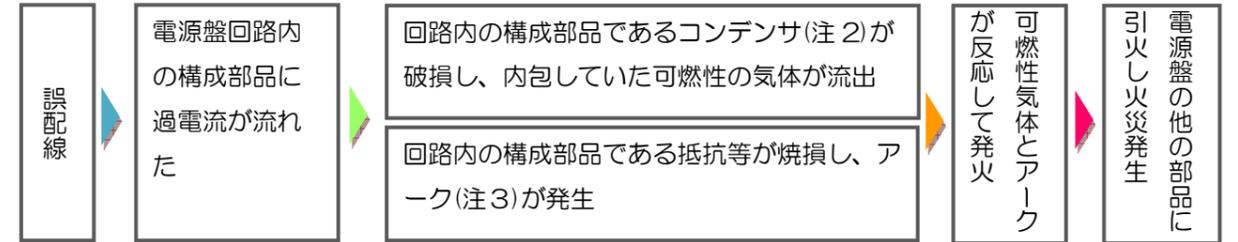
2017年3月8日午前10時07分、浜岡原子力発電所敷地内の事務所(放射線管理区域外)において、火災報知器が作動しました。新たに設置した執務室用空調設備の試運転中に、電源盤から発炎があり、近くにいた協力会社社員がその設備の電源を切ることで発炎がおさまったことを、当社社員が現場で確認しました。

このため、本事象について、消防署に通報するとともに初期消火要員による現場確認をおこないました。午前10時30分、消防署による現場確認の結果、鎮火していることが確認されました。

本事象は外部への放射能の影響に係るものではありませんでした。また、人身災害はありませんでした。

3 火災発生のメカニズム

以下のとおり火災発生メカニズムを推定しました。



4 誤配線に至った原因と対策

原因調査をおこなった結果から、原因と対策を以下のとおり整理しました。

原因	対策
工場で配線し検査した当該空調設備を分解し現場で再配線するという作業において、配線に係る管理をしていませんでした。	当社は、同様の作業をおこなう際は、チェックシートを用いてダブルチェックすることを調達時に協力会社に対して要求します。 また、当社は、次工程に進む前にダブルチェックされたチェックシートを確認することとします。

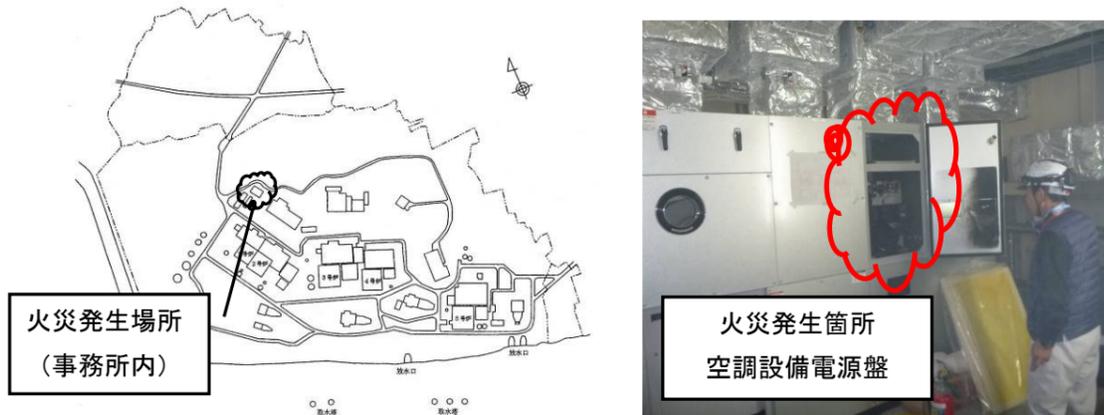
なお、原子力安全に関わる設備においては、現場での配線に係る管理がなされていることを確認しています。

(注1) DB端子とは、余剰の電気エネルギーを消費させるために抵抗器を接続する端子のことです。

(注2) コンデンサとは、2つの金属板(正・負の電極)に集まった正電荷と負電荷(電子)が引きつけ合う力を利用して蓄電するものです。

(注3) アークとは、二つの電極間の放電によって形成され、高温で強い光を生じるものです。

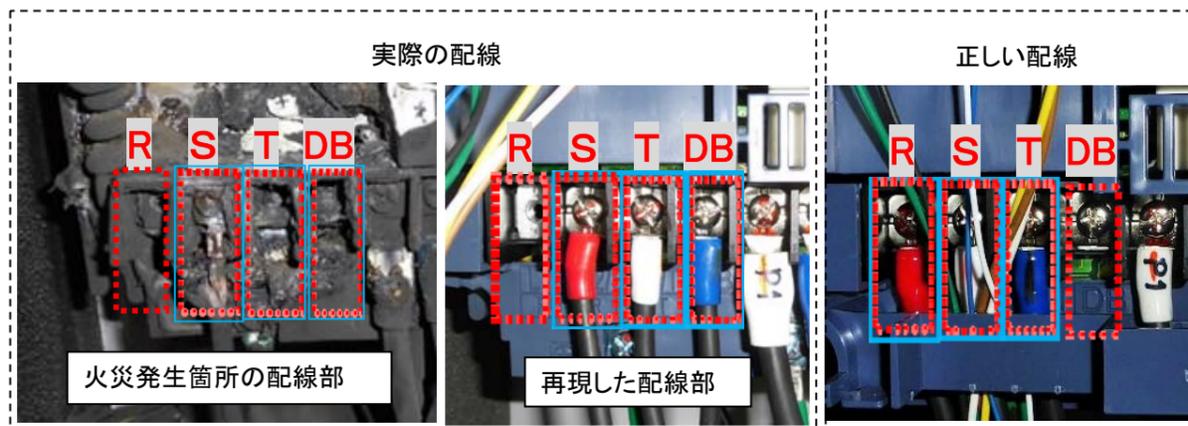
以上



発電所敷地内における火災発生現場の状況

2 状況調査

火災が発生した電源盤を詳細に調査した結果、配線を誤っていたことを確認しました。



3本ある電源ケーブルについて、正しくは回路の『R端子、S端子、T端子』に接続すべきところ、実際には『S端子、T端子、DB端子(注1)』に接続されていました。